

「小・中学校と博物館の連携に関するアンケート調査」 報告書〈小・中学校編〉について

本報告書は、平成 19 年度文部科学省委嘱事業、平成 20 年度文部科学省委託事業「科学的体験学習プログラムの体系的開発に関する調査研究」の一環として、国立科学博物館が平成 19 年 3 月に実施した「小・中学校と博物館の連携に関するアンケート調査」のうち、小・中学校教員を対象とした調査の結果をまとめたものである。

「科学的体験学習プログラムの体系的開発に関する調査研究」は、学校における科学的体験学習の質の向上のために、学校の授業等で活用可能な科学的体験学習プログラムの開発と体系化を行い、その成果を全国の学校や自然科学系博物館等の職員に普及することを目的としている。本アンケート調査は、調査研究を進めるにあたり、学校の体験学習の現状と、博物館を活用した体験学習に対する要望を把握するための基礎調査として、全国小・中学校の教員 3,000 名を対象に行った。同時に、博物館側の学校支援の体制の現状と課題を把握するために、全国 1,000 の館園でも実施した。

調査概要は、以下のとおりである。

●全国小学校教員アンケート調査・全国中学校教員アンケート調査

調査対象：全国の国公私立小学校 1,500 校、国公私立中学校 1,500 校の理科主任担当者

調査時期：平成 20 年 3 月

調査方法：郵送法

回収数：小学校理科主任担当者 514 通(回収率 34.3%), 中学校理科主任担当者 663 通(回収率 44.2%)

●全国博物館アンケート調査

調査対象：全国の博物館等 1,000 館園

調査時期：平成 20 年 3 月

調査方法：郵送法

回収数：696 通(回収率 69.6%)

なお、本報告書は、上記の調査のうち、全国小学校教員アンケート調査と全国中学校教員アンケート調査の結果についてまとめたものである。全国博物館アンケート調査については、別冊をご覧いただきたい。

本アンケート調査の結果が、学校と博物館の連携を促進するための検討資料として広く活用されれば幸いである。

平成 21 年 3 月
独立行政法人国立科学博物館